

「本日の第Ⅱ部、第Ⅲ部、来年度にむけて」

平田 直（プロジェクト総括）

下村 健一（白鷗大学 客員教授／元 TBS キャスター）

（平田） ここからは下村さんと私で、第Ⅱ部と第Ⅲ部の前置きをしたいと思います。下村さんは1985年に東京大学法学部を卒業後、TBSに入社し、報道アナウンサーとしてニュースキャスター、リポーター、特派員を務められました。1999年からはフリーで活動を続けていらっしゃいます。現在は白鷗大学の客員教授に就任し、後進の育成にご尽力されています。

最初の挨拶で申し上げたように、このプロジェクトでは、単に学術の研究をするだけではなく、地域・首都圏の防災力を向上するためにはどうしたらいいかということで、学術研究者以外の方の意見を聞きたいと思っています。

Ⅱ部ではサブプロ（a）（b）（c）の研究者が各分野でどのような産業界の方と連携しているかを紹介し、それを受けて第Ⅲ部では、このプロジェクトを外から見たときに何が必要か、私たちに足りないところを指摘していただきたいと思っています。下村さん、そのようなことでよろしいですか。

（下村） はい。先ほどから「社会は何を求めているかを知ろう」とおっしゃっていますが、今日、午前中に理事会がありました。私は端で見学させていただきましたが、そのときにも「研究室の中ではなく実社会に出て役に立とう」というご挨拶がありました。

なので、ここまでの発表については、この後のⅡ部とⅢ部で、どのように実社会とリアルに結んでいくかを考えたいと思います。早速、平田先生の言葉に勇気を頂いて、今の三つの発表の中で浮かんだ素朴な疑問を申し上げたいと思います。

サブプロ（a）の報告の中で、企業がBCP（事業継続計画）を策定したもののうまく機能しなかったケースについて、どういう点が駄目だったかを分析した研究データが出ていました。あれは非常に興味深かったです。というのも、私は2010年までの25年間、TBSを中心に報道の仕事をした後、転身して民間登用で内閣官房の審議官を務め、首相官邸の内閣広報室にしばらくいました。着任して4カ月で東日本大震災が起きてしまい、以後、震災対応が内閣広報室の仕事の中心になったのです。そのときに、「美しいマニュアルを作っても何の役にも立たない、使えるマニュアルでないと意味がない」ことを痛烈に感じたのです。

しかし、私が一番知りたいのは、その後どうするかです。機能しなかった点を改善するために、《どのように》作り直せばいいのか。まだBCPを策定していない企

業が今後同じ失敗を繰り返さないために、あのデータをどのように共有したらいいのか。実際、ここで得られたサブプロ (a) の知見を世の中が取り込むときには、どうすればいいのですか。

(平田) 今は答えません。この質問は第Ⅱ部で、そこで答えられなければ第Ⅲ部で答えるということで、どうぞ期待です。ぜひ最後までご参加ください。

(下村) はい。それぞれの研究の果実にはこういう栄養がある、ビタミン A とビタミン B があるという話はよく分かりました。後半では、それを食べた人間がどのようにそれを血肉にするかという消化のメカニズムの部分まで行かないと、研究室の中から外につながったことにならないと思います。今日の話、デ活の仲間になるかなるまいか、手を挙げるかどうかの判断材料にしようと思っている企業の方も、今日はたくさんいらっしゃると思いますので、その参考になるような展開ができればと思います。

エピソードを一つ紹介します。おととい、ある朝の情報番組にタイミング良くコメンテーターとして呼ばれたので、今日こういう報告会をやるという話をしました。そのときに、1枚目のフリップに「これからのキーワードはレジリエンスとデ活」と書いて出しました。スタジオはキョトンとしていました。「レジリエンスとは何ですか」と言うので、たとえダメージを受けても、しなやかに立ち上がる強さのことだという話をしたら、そういうのがあるのかという反応でした。レジリエンスさえそういう反応ですから、デ活となると皆さん「何？」という感じでした。民間にたくさん眠っているデータを利活用しようという話をしたら、皆さん「なるほど」と、ふに落ちていました。この出来事で、今日話されていることは全くまだ世間につながっていない、パイプは破断されているということがよく分かりました。

(平田) 今後とも頑張らなければいけないことが改めて分かりました。肝に銘じます。今日聞いた方は、ぜひ、お友達 10 人に宣伝してください。その人がまた 10 人に宣伝すれば、ねずみ算式に増えます。

(下村) せっかく集まっていたいたので、ぜひ広めていただきたいと思います。

(平田) 下村さん、どうもありがとうございました。第Ⅱ部も引き続きよろしく申し上げます。